



焼き尽くす真夏の太陽
甘い罠。

絡まる指先は滑り落ちる美しい暴力。

弾む鼓動
短命なりズムで . . .

それはまるで封じ込まれた死者達の叫び。

降り注ぐdamageも
侵され続ける重い病も、

薄紙を剥ぐ様に解き放しては弾けて消える。

伝わらない/伝えられない
それはこれ以上愛してはならない限界の距離感。

舌先で溶け合う超えゆくlineは、
埋め尽くせない空白を埋めてゆく。

委ねる無防備な暮れの日差しに透ける素肌は
全てのものに敵わない処女の白さで . . .

燃え尽きて散り行く灰は
刹那の華。

醜悪な墜落は祝福のない帰れぬ孤島。

遥か彼方の叶わぬ夢の果て。

求めては途方に暮れる。

楽園という名の処刑台。

凍て付く切望

遣る瀬無い嘆きの忘却の空へ . . .